85 周 年 に 思 う

同窓会会長　平 田　豊（22回）

21世紀の始まりは、大変厳しいものであった。小泉内閣の構造改革にかける意気込みにも拘わらず、日本経済の実態は悪化の一途を辿り、それが社会情勢を不安定なものにしている。

ただ、そのような環境の中で、我々の甲陽同窓会の昨年一年間の歩みは、ほぼ順調であったように思う。同窓会活動の最大のイヴェントである会員総会に於いては、来賓を含め324名の同窓生の参加を見て成功裡に終えることができた。各種委員会の活動も活発に行われ、同窓会活動の活性化につなげることができた。詳細は本誌別掲の欄に譲るが、ひとえに委員各位の貢献と、それを支えた事務局の努力によるもので、感謝に堪えない次第である。

また、新しい試みとして、同窓生の講演会が母校に於いて開催された。同窓会がその後援をしたのであるが、高校、中学それぞれにおいて非常な好評を博し、母校から感謝の辞を受けた。母校に対して如何様な貢献ができるかということが、同窓会活動の大きなテーマであるが、ささやかではあるがそのひとつが実現できたことはご同慶のいたりである。

さて、今年は85周年の年である。本格的なお祝いは10年毎の周年行事として行う予定であるが、やはりひとつの節目として意義のある事業を行うべく、会員名簿の編纂委員会を発足させた。この仕事は緻密な作業が要求されるものであって、委員各位の努力だけでなく、同窓生全員の協力が無ければ完成できない程の大事業であると考えられる。完璧な名簿作成の為に、同窓生の皆様の総力の結集をお願い申しあげる次第である。

話は変わるが、今、日本は危急存亡の秋にあると言われている。昭和20年太平洋戦争に敗れたあと、日本は奇跡的な復興を成し遂げ、世界の中の経済大国と言われるまでになったが、バブルの崩壊と共に、経済のみならず日本という社会の倫理基盤が崩れはじめるという様相を呈するに至った。道徳の退廃、凶悪犯罪の頻発等々、暗いニュースの続く中で、国民の間に閉塞感が広がっている。

また、先般、内閣府の国民生活世論調査によると、人々は働く目的の第一に「お金」をあげるようになったとある。かつて首位の座にあった「生きがい」が落ちて24％となり、「お金」が50％と断然トップの目的となったそうである。明治維新のあと、日本は近代国家の仲間入りを果たすべく、国民全体が額に汗してひたむきな努力をしたのであるが、その高い志が今は殆ど消滅してしまったように思える。

ただ、我々はこのまま立ち止まっている訳にはまいらない。今日の様相を呈するに至った原因は多々あるであろうが、昔を懐かしみ現状を歎く前に、まずやらなければならない大事な事がある。それは教育である。教育による高い志を持った人材の育成が、今日ほど急がれる時代はないのではないか。愛する日本に再び栄光を取り戻す唯一最大の手段は、教育であると云っても過言ではないと思う。

幸い、わが甲陽学院は、創立以来85年の間に、その独自の教育理念に基づき多くの人材を育成してきた。時に戦後は、中高一貫教育のシステムのもとに、日本をリードする有数の人材を数多く輩出するに至っている。

わが同窓会は、そのことに大きな誇りを持つと共に、教育の現場で日夜ご苦労を頂いている甲陽学院の関係者各位に、深甚なる敬意と感謝と熱いエールを送りたいのである。

母校にて同窓生による講演会

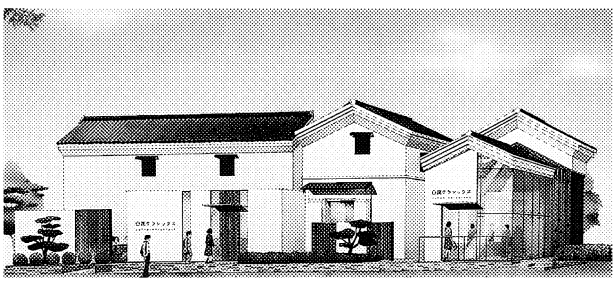
今年度より同窓会予算として母校後援費が計上されたことを契機として、母校では昨年の秋に在校生を対象とした同窓生による講演会が催されました。

高等学校では、11月17日　に東京大学大学院理学研究科教授の深田吉孝氏（55回）より「将来大学で学ぶ者に」と題した講演を、また中学校では、11月22日　にスクウェア社長（当時）の鈴木尚氏（61回）よりゲームソフト開発などについての講演をいただきました。中高それぞれ生徒達の関心の強いテーマでもあり、大好評でした。講演内容については次号にて詳報いたします。

甲陽だより

発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 平田　豊
印刷所
株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL（0798）-33-0691

同窓会事務局専用
TEL 0798－71－4888
（月・水・木・金 10：00～16：00）
FAX 0798－71－4890
甲陽ホームページ
http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/



白鹿クラシックス
Hakushika Classics

レストラン＆カフェ
AM11:00～PM10:00
（ラストオーダー PM9:00）
蔵元直送の銘酒と旬の素材をふんだんに使った和洋創作料理
0798-35-0001

ショップ
AM10:00～PM7:00
蔵元ならではの生酒他粕取り焼酎、奈良漬他清酒関連食品、酒器など
0798-35-0286

〒662-0926 西宮市鞍掛町7番7番
■定休日／火曜日

会員総会を振り返って

会員総会運営委員長　中 村　貞 三（35回）

2年間の運営委員長を仰せつかった経験から、会員総会の現状と今後の展望について少し考えてみたい。

会員総会参加者は平成10年までは100名前後で推移していた。平成11年は217名と増加。12年は365名に、13年は324名と300台が続いた。11年は「母校と共に歩む甲陽同窓会」をスローガンに創立70・80周年のビデオ・写真を織り交ぜつつパネラーの話を聞き和気藹々と語り合う集いだった。12年は国際日本文化研究センター教授笠谷和比古氏（49回）の講演「歴史的視点から～21世紀に向けた日本人像を考える」と「甲陽のあの頃、次代に伝えたい甲陽」と題したパネルディスカッションだった。昨年は「阪神地域学」フォーラムでテーマは「母校と阪神間の風土を語る」、ゲスト・パネリストとして大阪府立大教授堀江珠喜先生（紅一点）を招いた。企画が良かったから参加者が増加したとは単純に言えず、平田会長・有田専務を中心にスタッフのやる気と熱意が参加者の増加に繋がった点が大きいのであるが、やはり、1部と2部の構成は今後も定着させた方が良いと思う。2部は立食パーティである。それぞれの司会や会場設定担当者も定着し、要領が蓄積されてきた。予約せずに当日参加する人数が毎年40名は在る。その数を予測する事もポイントの一つである。今年は創立85周年、新しい企画で更に盛り上げる案が検討されている。今年の当番学年は53回生である。母校教員の佐藤秀明君や同窓会会務運営委員の竹内良治君らが大いに活躍してくれるものと期待している。

我々の同窓会活動は、少なくとも関西では他校から羨ましがられるぐらいの活動・組織を維持している（東京で日比谷高校が素晴らしい同窓会館をもってることや、都立戸山高同窓会が奨学財団を運営していること以外、あまり他校の活発な同窓会活動は聞いていない）。年間800万円の予算で、専従事務方を持ち、年2回「会報」を発刊、年1回の会員総会を開き、役員総会で予算決算を議決し、5年毎に会員名簿を発刊している。約13000名の卒業生の内、「甲陽だより」が手元に届いている卒業生が9,400～9,600名いる。そのうちの5,400名（56％）の人が終身会費か年会費を納めている。こんなに高い納入率の同窓会は近隣では皆無である。

勿論、克服しなければならない問題も多い。

1）若い同窓生の積極的な参加の問題。　2）会員総会での無料会員の制度の問題。　3）新卒生から終身会費徴収の問題、等々難しい問題の解決が迫られている。

同窓会というのは単に集まりの場だけを意味する訳ではない。NHKテレビの「課外授業」という番組は出演者の先輩にとっての想い出深い母校であるだけでなく、視聴者それぞれにも、番組を通じて自分の「母校」や「同窓」に思いを通わせ、あらためて「母校」という存在の大きさを強く印象づける。また、日経の毎日のコラム「交遊抄」も「同窓」の友人・恩師を取り上げるケース

が多く、楽しいつき合いの想い出は中高生時代のものがやはり多い。問題は、一人ひとりの同窓生にとって「寄る辺」としての「同窓」が大きな意味を持っているにもかかわらず、大集団組織としての「同窓会」に生き生きとした帰属感を持っている場合がかなり少ない事だ。そもそも同窓会という組織は、入会するのは会員がばらばらに別れていく時という奇妙な組織であり、表面的には会員の想い出と同窓生としての意識しか絆らしい絆が見えないような組織である。だからこそ「同窓会」という組織にとっては、年齢・職業・趣味・思想の違う同窓生を、どう掌握し束ねて、会員の「同窓」に寄せる思いを増幅するか、その期待にどう応えていくかが大きな課題として浮かび上がってくる。

そのためには同窓生が、互いの絆としての連携をもっと深めたい、広めたいと思うことが先ず必要なのではないか。それによって個々人の社会生活、さらには人生そのものがより豊かになり、面白くなっていくような、そういう同窓会づくりが理想とされているのではないか。21世紀の同窓会は会員相互の親睦を図るのみならず、社会の第一線で活躍する個々人が生き生きとした絆を結び、互いに切磋琢磨し合うことで自らの人生も豊かにしていく、そして、それがとりもなおさず、母校の発展を支えることに繋がっていく、そういう同窓会を目指したい。それぞれにすぐれた個性をもつ甲陽の同窓生が互いに情報交換をし、触発しあい、高め合うことは同窓生一人ひとりにとって有益であるばかりではなく、母校甲陽の更なる発展に大きく寄与することは論をまたないのである。更には、そのことが混迷を深める日本の現代社会、ひいては天下国家に少しでも貢献出来るとしたら、これ程愉快なことはないのではあるまいか。

衆知を集めたいものである。

次ページに今回お招きした堀江珠喜先生からのメッセージと甲陽史学会の紹介記事を掲載いたします。

同窓会にお招きいただいて

大阪府立大学教授　堀 江　珠 喜

同窓会では、おかげさまで、とても楽しいひとときを過ごさせていただきました。感謝！「派手なファッションで来るように」との河内様の御指示に従ったのですが、甲陽の品位を傷つけませんでしたかしら？

夙川で生まれ育った私は、毎朝、神戸女学院に通うため阪急の駅に向かい、甲陽中学の方々とすれ違いました。陽光を浴びて輝く真白な風呂敷包みの美しさは、忘れられません。（なんと、骨箱を連想する人がいたようですが。）

女学院生にとって、甲陽は親しみのもてる学校でした。当時、私の「憧れの君」も甲陽に……しかし残念ながら……。そして今も、「ロマンス・グレー」という言葉がぴったりの素敵な某氏が、やはり甲陽の御出身で、女心をときめかして下さいます。ウフフ。

シンポジウムでも皆様の紳士的で温かい雰囲気が満ちていましたが、パーティでは私のためにお料理を運んで下さる方もおられて、感激いたしました。さすがに甲陽OBの皆様は、「ホスピタリティ」を心得ていらっしゃる。ところで、あの折、わざわざ私に「携帯」の番号を尋ねられた○○様、あれからちっともデイトのお誘いがないのは何故??

甲陽史学会のこと

橋 本　久（41回）

昭和22（1947）年4月、『常陸国新治郡上代遺跡の研究』で学界から高く評価された高井悌三郎先生が甲陽学院に赴任されてまもない頃、地元のすぐれた歴史研究者で戦後まもなく昭和21年から5年間西宮市立図書館長として歴史学・地域研究図書収集にも尽くし質量ともにすぐれた地域図書館としての経営に努力された田岡香逸氏を主宰として、高井先生および京城帝国大学で国史学を学ばれ昭和20年12月に甲陽中学校に就任された宮川秀一先生と、三人のみの研究会が「甲陽史学会」として発足した。その活動内容は、結成40周年を祝う三先生の『甲陽史学会著作目録』に詳しい。

それ以外の活動の一端を紹介すると、三先生は県内の歴史研究者を集めて結成された兵庫史学会（事務局：神戸大学日本史研究室）にも結成準備委員として当初から参加された。田岡・高井先生は県文化財委員として、宮川先生も多忙な学内業務を兼務しながら、それぞれ西宮市史を初めとする阪神間および播磨各市の市史の編纂・執筆の委員として活躍された。さらに三先生の現地調査や発掘調査の結果、兵庫県指定文化財、さらには国指定文化財に指定されたものも少なくない。加西市の古法華三尊仏、伊丹市の伊丹廃寺跡、氷上郡市島町の三ッ塚廃寺跡、小野市の広渡廃寺跡、その他である。晩年の三先生は、それぞれ田岡先生は、在野の研究者として、高井先生は辰馬考古資料館長として、宮川先生は大手前女子大学教授として活躍された。

結成40周年の祝賀会に際して、出席した甲陽学院卒業生の一人、笠谷和比古氏が田岡先生に「甲陽史学会」の名を継承して、後輩たちが研究会を新発足させることの許可を受け、第二次「甲陽史学会」を発足させることになった。甲陽学院出身・関係者で歴史研究を行っている者、第一次「甲陽史学会」の活動に参加して三先生との面識を得た者、歴史研究に関心をよせる者などで、希望者を募り、参加を呼びかけている。現在は、毎年正月と夏のお盆の頃に集まり、最近の研究報告と懇談会を催しており、研究情報の交換から、新たな共同研究への発展もみている。中学校の書庫に埋もれていた宇津保文庫の調査報告（山内・黒田）、朝鮮半島にある倭城の研究（笠谷・黒田）は、成果の一端である。

これまでのおもな発表者は、高井悌三郎先生、故宮川秀一先生のほか、中島久（22回）、笠谷和比古（49回、近世史）、山内英正（甲陽学院教諭、近代史）、浅岡俊夫（六甲山麓遺跡調査会、考古学）、黒田慶一（大阪市文化財協会、考古学）、五十川伸矢（50回、考古学）、古川久雄（六甲山麓遺跡調査会、石造美術史）、東野治之（46回、古代史）、田辺征夫（44回、考古学）、矢野健一（辰馬考古資料館）、橋本久（41回、法制史）などである。出席者としては、他に、山口格太郎（滴翠美術館長）、渋谷元（43回）、木谷義紀（44回）、奥山哲夫（44回）、浦長瀬隆（50回、経済史）、久義裕（61回、経営史）、など。

この会への出席希望者は、久義裕（ひさ・よしひろ）氏に連絡されたい。

なお40名近い甲陽学院卒業生が歴史分野の職業に就いているようである。

会員総会パネルディスカッション

母校と阪神間の風土を語る

◎パネリスト…

＊衣川　俊雄（28回）
宝塚市・元助役、現在　種智院大学事務局長。

＊橋本　　久（41回）
大阪経済法科大学教授。甲陽史学会。

＊久　　義裕（62回）
久金属工業㈱取締役。甲陽史学会。

◎ゲスト・パネリスト…

＊堀江　珠喜（大阪府立大学総合科学部　教授）

◎コーディネーター…

＊河内　厚郎（52回）
「関西文学」編集長。夙川学院短期大学教授。

衣　川　氏

河内　衣川さんの甲陽時代から語っていただきましょう。

衣川　入学した、昭和18年、講堂（新校にそっくり移築された）で朝礼があって、藪校長先生が1時間以上お話になり、熱弁のあまり総入歯をガチャンと演台に落とされ、満場大爆笑になったのをよく覚えております。英語の加藤先生はリーダーを暗記させるために一人ずつ当てていかれまして、できないと教壇で竹の棒で頭をたたかれて瘤になりました。当時は戦争真っ只中で、各中学校には鬼かと思える配属将校が来て、軍事教練でしごかれました。服装もゲートルを巻き、ズボンのポケットに手を突っ込んではいけないので縫ってこいと言われ、校内では裸足という厳しい時代でした。戦争が激しくなると鳴尾浜に飛行場ができて滑走路の掃除等にいき、1年間程は何とか勉強できましたが、それからは学徒動員で尼崎の工場で1年半ほど働いて、その工場が空襲で焼けると阪神電車の保線の仕事をやらされ、玉音放送は阪神尼崎駅のスピーカーで聞いたのを覚えております。学校に帰ってまいりますと「北野中学に追いつき追い越せ」がモットーで、びしびしと勉強を教えられ、これはたまらん。1年半ほど働いていたわけですから勉強の癖など抜けちゃいまして、4年生から私立大学の予科へ逃げてしまいました。当時は旧制の5年で卒業するルートと新制高校に移って卒業するルートとを選択できたんです。同学年には、文化勲章を受けた花房秀三郎さんやウルトラマンの生みの親、成田亨君がおります。

河内　橋本さんは昭和30年代の在学ですね。

橋本　中学校の3年間は同じ先生にクラス担任をもっていただくので、先生の性格がのり移るように出てまいります。私は中島久先生の命令で図書委員をやらされて閲覧係を担当しました。書庫に積み上げられていた「ライフ」のバックナンバーを2回ばかり閲覧机にずらりと並べたら、大好評で満員になり、うけた覚えがあります。部活は地歴（社会）部を選びました。

橋　本　氏

甲陽は戦後まもなくユニークな先生方を集められましたが、その中に、茨城県の師範学校で教えながら、全国の歴史考古学者の中で、一つの地域を対象に基本的な調査を行った最初の方という高井悌三郎先生がおられました。故・辰馬吉男さんが自ら足を運んで招かれたと聞きます。宮川秀一先生もそうで、京城帝大を出て、陸軍中野学校在学中に終戦になり、そういう立場を隠して就職されたそうです。

現在の加西市の一帯は白鳳時代の古代寺院がわんさかとある大変な地域です。奈良以外にはほとんどないというのが常識だった白鳳仏を、地元の方が偶然見つけて保存し、戦後まもなく西宮市の図書館長だった田岡香逸さんに声をかけられました。田岡さんは高井・宮川両先生と「甲陽史学会」をつくり、昭和20年代から30年代にかけて県内の資料調査に出かけては国宝級のものを順次見つけていかれました。先の白鳳仏は全国に「甲陽史学会」の調査報告書で知られました。五重塔のてっぺんにある青銅製の大きな水煙が伊丹廃寺で出たあと、私が高校の2年生の頃から大学院を出る頃まで発掘調査が続き、その中心になられたのが高井先生でした。高校生の私たちは自転車で春休みも夏休みも冬休みの毎日通いました。

このように3人の先生方がトップレベルの仕事をこつこつされて、直接間接にその影響を受けたことで、2、30名の歴史研究の専門家が甲陽から出たのではないかと思います。

河　内　氏

久　私は東京の大学に行きましたが、甲陽出身だと話しますと「高井先生お元気か」「宮川先生お元気か」と歴史の専門の方から言われ、専門でない方々でも御存じの方が多く、先生方の学問的業績を再認識した次第です。地歴部で両先生に勉強させて頂いたことは、オリジナルをきちんと調べて分析をするということで、これはアカデミックな世界だけでなくどんなフィールドであろうと重要なことかと思います。

堀　江 氏

また、当時は非常勤講師の先生がたくさんお見えになりましたが、それが京大や阪大の院生だったりするわけで、今は教授になられている。つまり大学レベルの教育を受けたということが甲陽で学んだことの最大の財産だと思います。

河内　堀江さんはマリア幼稚園から安井小学校、中学からは神戸女学院、大学院は神戸大学ですね。夙川育ちですから甲陽中学の学生を毎朝ご覧になっていたわけです。

堀江　今日はお招き有難うございました。できることなら30年前に呼んでいただきましたら私の人生は変わっていたんではないかと残念な気もいたします（笑）。神戸女学院の1年先輩の方のボーイフレンドが甲陽生でして、その方のお友達に心ときめかせたんですけれども、それが高2のときで相手は高3ですから、邪魔したら悪いなと思ったんです。甲陽の生徒さんには大学受験がありますでしょ。私たちは阿呆でも上にあがれる状況ですから、こっちの遊びに引き込んで大事な一生を棒に振らしてはいけないな、とかいろいろ遠慮がありまして、モーションかけられないうちに、縁がなかったんでしょうか、何もどうもならず。その時代に携帯電話があったら、よかったのですけどね。当時は電話かけたら相手の母親が出てきますから、うっとうしいでしょ。

河内　なるほど。　―女学院の皆さんは中学に入る時一番勉強なさるんでしょうかね。

堀江　あれほど受験が重かった時代はないですね。神戸大学の大学院にいくときの方がよっぽど楽でした。今受けたら、神戸大学の大学院は通るけど女学院の中学はすべると思います。皆様もそうじゃないですか。甲陽の中学をこれから受けて通る方ってどれくらいいらっしゃるか。

当時「応用自在」という問題集があったんです。受験校の出した問題が並んでいて、私は神戸女学院を受けるつもりでしたから、そこは絶対解こうとします。それから甲陽、灘と解こうとするんですが、甲陽と女学院はだいたい同レベルで、3題あったら2題は解けます。でも灘は3題のうち1題しか解けない。やっぱり灘は賢いんかな、甲陽とはお友達になれるかな（笑）。

河内　女学院の生徒さんは化粧するんですか。

堀江　していってはいけないことになっていますが、目立たないマニキュアくらいはしてました。でも、していたからって「落としなさい」と言われるだけで、除光液で無理に落とされるわけではない。高校の卒業式のときに卒業生はお化粧してもいいというので、3学期になるとカネボウか資生堂を呼んでお化粧の仕方を教えてくれました。それまでに知ってますけどね。でも今は地味になりました。なさけないくらいアンファッショナブルというか、お勉強ばっかりしてるみたいで、何のために神戸女学院に入ったのかなと思います（笑）。私たちの頃は勉強しようと思って入ったわけではなく、土曜は休みだし、私服だし、お弁当持っていける。公立の中学校は給食でしょ。それに絶対いい縁談が来るっていうんで（笑）。

河内　衣川さんはベガホールや手塚治虫記念館の建設など文化行政で活躍されました。

衣川　戦争中甲陽におられた音楽の出口先生が、宝塚歌劇団でバレエの先生をされていた方の弟さんで、ベートーヴェンのソナタだとかショパンだとか本式に演奏を聞かせて下さる。それで音楽に興味をもち、宝塚歌劇団におられた竹内平吉さんにピアノとハーモニーの手ほどきを受けることになりました。人間不思議なもので音楽に興味を持ったというだけですのに、それがクラシックからジャズ、日本の古典にまで広がり、大学時代には西宮北口の日芸会館で「コーラスをつくるので下手でもいいから伴奏に出て来い」と言われたのが縁で出入りするようになりました。あそこは演出家の武智鉄二さんが「武智歌舞伎」と称して今の鴈治郎さんや実川延二郎さん（故・2代目実川延若）や坂東鶴之助さん（現・中村富十郎）を集めて芝居をやっておられたので、照明を当てる手伝いをやったりしました。役所に入ってからも、市民のミュージカルやオペラを演奏会形式でやることになりますと、台本を書いて専門家に渡し「これでやってください」と恥ずかしげもなく言ってきましたが、甲陽の音楽の先生から影響を受けたお蔭で人生に得ることが多かったわけです。

河内　甲陽史学会のその後を教えてください。

橋本　国際日本文化研究センターの教授になっている笠谷和比古君が「ぜひ名前を使わせてください」と田岡さんに断り、第2次の甲陽史学会としてやっております。甲陽出身者だけでなく一緒に仕事をやってきたメンバーをどんどん加え、年に1、2回、レポーターの研究報告を聞いてディスカッションし、その後で飯でも食いながら飲みながら最近の仕事の話をする会です。メンバーの協力で最近甲陽中学の書庫に埋もれていた宇津保文庫という資料を発掘し、山内英正先生を中心にして2冊報告書を作られました。

久　甲陽といえば辰馬さんという設立者の尽力を高く評価すべきです。お酒だけでなく、損害保険とか海運業など各業種の会社が辰馬家を起源としています。そういう酒造ブルジョアジーの風土の上に甲陽学院、甲陽史学会もあるかと思います。こういうケースは全国的に見ても少ないでしょう。

久 氏

堀江　阪神間はいい意味で個人主義が育った日本では珍しい場所です。それが大人の文化に通じます。迷惑がかからない限り人のライフスタイルにとやかく言わない。よその土地であれば「あの歳してピンクのシャツ着るなんて」と言われても、ここでは好きなものを着て自己表現ができる。それを支えているのは私学で育った方々の伝統なり考え方なりリベラルな思想だろうと思います。幾つになられても女心をときめかしてくださるお洒落な男性を甲陽さんでは育てていただきたいと切に願っております。

会　務　報　告

◇平成13年4月から平成14年1月31日までの会務報告を申し上げます。

1　はじめに

本年度は、21世紀に入りまして最初の年度であります。それだけに新たな覚悟で気持ちを引き締めて、同窓会の日常業務は勿論、諸々の活動を展開してまいりました。同窓会は会則と従来から行っている慣行に従って会務を遂行してきています。

ここで我々が留意しなければならないことは、このことが過去からの慣行だからとの意識であります。確かに従来からの同じ手法で同窓会の運営や活動を行えば、無難ではありますが、ある面では安易な気持ちになりがちです。何か問題が起これば、これは過去からの慣行どおりだと逃げ道があります。これでは新しき同窓会の活性化は望めません。我々のより良き魅力ある同窓会に脱皮することも、他校に勝る同窓会への進歩もありません。

このことを我々執行部は認識を新たにして、理事・評議員の皆様ともオープンにご相談し議論を闘わせて、同窓会の新たな躍進・進化の道を求めて、遅々としてではありますが、堅実で地道に歩み続けているのが現在の状況であります。これらは、執行部役員のみで達成できるものではなく、皆様方のご理解とご協力、そして暖かい叱咤激励なくして出来うるものではありません。宜しくお願いを申し上げます。

2　各委員会の活動状況について

1．会報編集委員会

本年度は、会報・第64号と第65号を発行致しました。総体的に見まして、同窓会の情報誌というには、まだまだの感なきにしもあらずとのご意見・ご批判も承っています。しかし、一歩ずつ内容の刷新と充実を行って堅実に成長をしていると思います。

委員会では数多くの編集会議をもち、皆様のご期待に沿うべく、編集方針の検討や新たな企画に議論を重ね、内容の更なる刷新と充実を目指して、現状に満足することなく、同窓会の情報誌として前進したいと、編集委員全員が願っています。

同窓会の会報として「甲陽だより」は如何にあるべきか、皆様方の忌憚のないご意見・ご批判をお寄せ頂ければ有り難く存じます。それを謙虚に受け取らせて頂き、情報誌・会報の躍進の糧にしたいと存じます。どうか暖かく見守って頂きたくお願い申し上げます。

2．会員総会運営委員会

会員総会の企画・運営につきましては、委員会のメンバーと共に、昨年から当番卒業学年を設け、委員会に参加を頂いて、お互いに知恵を出し合い協力をしあいながら、ご多忙のなか何回も会合を持ち、会員総会に新機軸を求めて、その実現に懸命の努力を重ねました。

会員総会は、お陰様で324名の多数のご参加を見まして、皆様のご好評を得ましたことを有り難く存じます。

14年度は、甲陽学院・創立85周年の記念総会に当たります。当番学年の第53回卒の皆様のご協力を得まして、新しい発想による新鮮な企画と円滑な運営に期待を持っています。(本年度の会員総会の詳細につきましては、2ページ掲載の会員総会運営委員会・中村貞三委員長の「会員総会を振り返って」をご参照下さい。)

3．会務運営委員会

この委員会は、会則・第28条　第1項の規定により、同窓会財政の安定化・健全化、並びに今後の同窓会の在り方・運営・活動など、多岐にわたる議論を行って、その方向付けを見いだす為に、臨時に新設された委員会です。この委員会で議論し結論を見い出した問題を答申書に纏めて、会議の議事録を添付して会長に提出することになっています。会長は、答申内容を常務理事会に諮り、その結論を理事会・役員総会に議題として提出し、その審議・承認を得て実行に移すことになります。

今まで4回の熱心な会議がもたれました。先ず、早急に方策を見い出さなければならない同窓会財政の安定化への案件を討議し、難しい道ではありますが一つの結論を得ました。これを最終的に纏める作業を現在行っております。

4．会員名簿編纂委員会

平成14年は、母校・創立85周年の節目にあたり、5年毎の会員名簿の発行があります。この編纂作業も前回と同じく会則により臨時の委員会を設け、企画・編纂・広告募集　等の業務を行います。

これは言うに易く行うに大変な作業になります。担当する委員の方々に、過酷な労力と個人の貴重な時間を取らせ、精神的な負担も相当なものがあると思います。

今年1月から正式に委員会を発足させ、新しい会員名簿の在り方・組織形態・今後の作業の進め方など、会議の中で議論を重ねています。問題は、最近の変動の激しい社会・経済状況の中で、同窓生の転職・住居の移動が多く、転居先不明者が増えてきている傾向にあります。

この追跡調査が、事務局の機能の限界を越えてきています。このことから、第三者の名簿作成会社に委託してはとの案も出てきています。ただ、費用の面・プライバシー保護・広告募集の難しさ等があり、やはり名簿は我々の手作業で行い、同窓生との血の通った暖かい繋がりを重視したいとの考えもあり、その結論を委員会で急いでいるのが現状であります。

3　理事・評議員の空席補充と充実について

近頃の傾向としまして、転勤・転職などで、理事・評議員の皆様の遠方への転居が多くなり、理事会・役員総会へのご出席が困難になっています。また、転居後のご連絡もなく、会報も宛先不明で戻ってきております。よ

って、理事・評議員名簿の再確認と空席の補充・交代など、名簿の整備をお願いする作業を行っています。

会則により理事・評議員の選出は、その同期の方々が選ばれて、事務局に届け出ることになっています。理事・評議員の方々は、同窓会の運営・活動に重要な役割を担われています。差し出がましいことですが、同窓生の皆様には再度のご確認をお願いしまして、その補充・交代を事務局までお知らせ下さい。

4　同窓会財政の現況について

①平成13年度の収入について。（平成14年1月末　現在）

：年　会　費－1,922,000円.（予算計上－1,000,000円.）
：終身会費－4,613,500円.（予算計上－7,000,000円.）
：合　　計－6,535,500円.（予算計上－8,000,000円.）

上記のとおり、年会費・終身会費のみの実収入を見れば、予算に対して約146万円の、現時点での未達成となっています。

3月末決算を予測すれば、計上予算1,075万円に対して、実収入を960万円と見込めば、約115万円の収入減となります。

②支出面について。

1月末現在の支出累計は約767万円で、これを3月末決算時で予測すれば、支出総額は約1,000万円（会報の発行・新卒者への記念品などが、約200万円）と見込んでいます。

③収支の予測について。

3月末決算は、上記の見込み予測から、単年度のみの試算で約40万円ほどの赤字と見ています。しかし、前年度からの繰越金が約700万円ほどありますので、これをもって調整をさせて頂く考えでおります。

5　来年度以降の財政見通しについて

＊その年度の同窓会の運営・活動費を賄う財源は、年会費と終身会費の収入であります。これを来年度で予測すれば、非常に厳しい状況にあることは、今まで何度も申し上げてきております。

＊この主たる原因は、新終身会費制度の発足で、今まで毎年にわたり年会費を納付されていた方々が、特典が付与された新終身会費制度を活用され、毎年の年会費の納付から、1回限りの終身会費に切り替えられました。以後は会費を納付される義務はありません。

＊ここに当然のこととして、年会費の納付者が減少し、終身会費に切り替えられる方も年々に減少してきます。終身会員でない全員の方が年会費を納付されれば、毎年の運営・活動費を賄うに問題はないのですが、母校の同窓会活動に関心のない方もおられます。事務局として、未納者の掘り起こしに努力を重ねていますが、まだまだ力およばずが現状であります。

＊確かに、新終身会費制度の採用で、3年間ほどは同窓会財政に潤いをもたらせました。この潤いは、過去の赤字財政で取り崩しました基本金の補填に充当しました。まだ若干の余裕がありますが、今後の会費の収入減を考えれば、ここ数年でマイナスになろうかと推測します。

＊一方、端的に言えば終身会費の収入を、単年度の会費収入として計上したことは、会計処理上に問題ありとも言えますが、終身会費を納付された方が75歳になられるまで、何年にもわたり終身会費を分割計上する事務上の煩雑さを考えれば、基本金の補填もあり、単年度の会計処理は止むを得ないと、ご了解を得たいと存じます。

＊この収入減・財源難の打開策を模索すべく、新会務運営委員会を設け、同窓会財政の安定化・健全化策を求めて、知恵を出し合って論議を重ねてきました。この度、その方策も固まり答申書として纏める作業を行っております。

6　新終身会費制度の再延長について

＊昨年の役員総会で、特典が付与された新終身会費制度の1年間の延長をお願いしまして、そのご承認を得ました。今回、新会務運営委員会で纏めます同窓会財政の安定化策との関連で、平成19年度（創立90周年）までの延長を提案したいと、同委員会でのご検討をお願いしています。「終身会費・各回別納付金額設定表」の設定金額に若干の見直しがあろうかと思いますが、今度の役員総会に提案をさせて頂きたく準備をしております。

＊年会費の増額問題も、同委員会で検討を致しましたが、我々を取り巻く周囲の悪環境から、時期尚早として平成19年度までに、再度検討をして結論を出すことになりました。

●終身会費・各回別納付金額設定表●

回生	金額	回生	金額	回生	金額
1回	10,000	31回	10,000	61回	23,500
2回	10,000	32回	10,000	62回	24,000
3回	10,000	33回	10,000	63回	24,500
4回	10,000	34回	10,000	64回	25,000
5回	10,000	35回	10,500	65回	25,500
6回	10,000	36回	11,000	66回	26,000
7回	10,000	37回	11,500	67回	26,500
8回	10,000	38回	12,000	68回	27,000
9回	10,000	39回	12,500	69回	27,500
10回	10,000	40回	13,000	70回	28,000
11回	10,000	41回	13,500	71回	28,500
12回	10,000	42回	14,000	72回	29,000
13回	10,000	43回	14,500	73回	29,500
14回	10,000	44回	15,000	74回	30,000
15回	10,000	45回	15,500	75回	30,000
16回	10,000	46回	16,000	76回	30,000
17回	10,000	47回	16,500	77回	30,000
18回	10,000	48回	17,000	78回	30,000
19回	10,000	49回	17,500	79回	30,000
20回	10,000	50回	18,000	80回	30,000
21回	10,000	51回	18,500		
22回	10,000	52回	19,000	高商・1	10,000
23回	10,000	53回	19,500	高商・2	10,000
24回	10,000	54回	20,000	高商・3	10,000
25回	10,000	55回	20,500	高商・4	10,000
26回	10,000	56回	21,000	機械・1	10,000
27回	10,000	57回	21,500	機械・2	10,000
28回	10,000	58回	22,000	造船・1	10,000
29回	10,000	59回	22,500	造船・2	10,000
30回	10,000	60回	23,000	工業・1	10,000

（単位：円）

リレー随想

― 第 1 回 ―

この号から、同窓生の皆様にリレー形式で、その折々の思いつくままの随想を綴って頂くことになりました。課題は何もありませんので、自由にのびのびと何の遠慮もなく語って頂きたく思います。

そのトップを飾るランナーとしまして、母校が大正6年（1917年）に開校されて、大正11年3月にご卒業されました第1回の卒業生であります西松龍一大先輩にお願いを致しました。大先輩は今年数え年で百歳のご長寿を迎えられます。大先輩は今なお矍鑠とお元気に、そのご健康を誇っておられます。

同氏は、甲陽学院同窓会の創設時のメンバーとして、同窓会の発展に尽力され、長らく副会長のご要職を務められまして、我等の同窓会の着実な発展に寄与されました。現在は同窓会の相談役をお願いしています。同窓会の会合には全て皆勤され、何時も杖に頼ることなく、お元気にさっさと早足で歩かれてご出席を頂いています。

今回のリレー随想の幕開けをお願いしましたところ、口述で良ければとご快諾され、編集委員会で質問形式の口述筆記をさせて頂きました。

甲陽の原風景

西松　龍一（1回）

先輩は明治36年（1903年）のお生まれで、今年で数え年　百歳になられます。昨年は同窓会の有志の方々が、先輩の「白寿の会」を催されて、先輩の更なるご長寿とご健康を祝われたそうですね。

そうです。中島　久さんの肝いりで、古い仲間が集まって、思いもよらぬお祝いをして頂きました。辰馬本家からも祝い酒を頂戴して感激しています。

大阪市西区江戸堀で生まれ、親は西松商店の名前でインド綿花の輸入商社をしていました。そこで2・3歳まで過ごして、神戸市東灘区の東明に移りました。御影の西南で海岸に近く、その頃の海や浜辺は綺麗なものだったと云う記憶を持っています。それから住吉村の八田甲に住居が変わりました。小学校は御影師範の付属でした。当時は和服に袴で、酒屋で売っていた手製の藁草履で通学を楽しんだものでした。周囲はほとんど田圃と畑で、家から遠目ながら綺麗な海が見えており、のんびりとした郊外の田園風景でした。

まるで目に浮かぶような、話に聞く昭和初期の神戸の郊外ですね。そこで中学受験で、創立早々の甲陽に何か先輩の心を引き付けるものがあったのでしょうか。

実は神戸一中を受験して失敗したのです。そこで他校を受けずに、翌年に開校するという甲陽中学校の評判が良かったので、1年を待って甲陽の1回生として入学した訳です。その評判とは、その当時の神戸を象徴するようなハイカラな学校、自由を重んじ生徒の個性をのびのびと伸ばす学校、また坊っちゃん学校だとも言われていたように思います。当時の教育界では伊賀駒吉郎先生の名声が高く、それにも魅かれたのかも判りません。また、通学の利便さもあり、御影駅から今津駅までの阪神電車一本の通学が魅力でした。

甲陽の創世期について、思い出話をお伺いします。

創立したばかりの学校です。自分等が甲陽の歴史と伝統を創造するのだとの少年の気概が、どこかにあったと思いますが、実際は何も思わず恵まれた自然環境と良き昭和初期の時代の中で、思えば青いリンゴのような青春を満喫していたようです。

校舎は2階建ての木造でしたが、校庭は広く柔・剣道の道場も、野球のグランド・テニスコートもありました。校庭の隅には校長の家や寄宿舎もありました。寮生は10人ほどで、遠くは淡路島からの生徒が居ました。生徒は全部で200名で、桜・桃・梅・李組の4組に分かれていました。私は桃組でした。

学校は昔の今津村にあり、甲子園の旧校舎のあった場所です。阪神の今津駅の次は鳴尾駅で、今の甲子園駅は後になって枝川の上に出来たものです。駅から学校まで、畦道を20分ほどの道程です。夏は蛙のうるさいほどの鳴き声を聞きながら歩きました。雨の日は泥をはねながら走ったものです。自然環境は満点です。昼の弁当は、教室から枝川の土手の松林まで、競争のように走っていって、川のせせらぎの音を聞きながら食べました。立食する生徒もいました。土手の松林の緑、川面の水色、周り一面は赤い実が鈴なりのイチゴ畑です。昼食後は、もぎたての新鮮なイチゴを、仲間たちと頬ばるのが何よりの楽しみでした。帽子一杯が多分10銭だったと記憶をしています。

あの頃の風景を想い描けば、今津駅は今の駅ではなく、久寿川駅の近くにありました。学校の周囲は一面のイチゴ畑で、そのシーズンが終われば稲の水田になっていました。枝川は本当の清流で、水底の砂が太陽の光でキラキラと輝いていました。武庫川の支流ですが、川幅が100mもありました。今津の海浜にも近く、全校生徒による夏の遠泳が、懐かしく思い起こされます。手漕ぎの和船について、エイエイと掛け声をかけあいながら泳いだものです。今津の灯台がある海浜です。当時の情景が、その時の仲間の面影とともに、走馬灯のように浮かび懐かしく甦ってきます。

小学生の和服から中学生になって、初めて制服を着ました。カーキ色の制服にゲートルを巻きました。帽子も同じ色で、校章は「中」の字の真中に「甲」が浮き彫りになっていました。今の中学校の校章と同じでしょうか。教科書などは、白い風呂敷に包んで通学をしていました。神戸一中と同じでした。この白風呂敷の伝統は、戦後の新制中学で暫く続いていたそうですね。

組分けは4組でしたが、進級するたびに成績順にクラスが替わりました。同期の合田さんは桜組で、初代会長の宮崎さんは桃組でした。どちらも故人となられ

ました。現在、第1回卒で健在なのは僅かだと思います。人間の定めとはいえ淋しいものです。

当時の部活動は、剣・柔道部と野球・サッカー・庭球・陸上競技部があったと思います。私は小学校で蹴球をやり、着物姿の藁草履で球を蹴っておりました。甲陽では蹴球と庭球部でした。野球部は、私が卒業した翌年に全国中等学校野球大会で全国優勝しました。その優勝メンバーの山野井さん（4回）とは、よく練習後に水飲み場で一緒になり、上級生・下級生の隔たりもなく、和気藹々たる雰囲気の中で、お互いに頑張ろうと励ましあったものです。

阪神間の私立には関学があり、公立では神戸一中が有名で、運動部は対外試合をよくしていました。神戸一中は野球で全国優勝をしており、野球部は打倒・神戸一中で懸命に頑張っていました。他の部も他校との対外試合は活発であったと思います。

教科は今とは変わらないと思いますが、サーベルをぶら下げ威張った陸軍の配属将校がおり、体育の一環として教練は必須科目でした。高学年になり、重い鉄砲を担いで厳しい行軍などもあり、嫌いな学科の一つでした。

学校の雰囲気は、自由で闊達であったと思います。伊賀校長は温厚な小柄で太った方でした。生徒とはよく話をされていました。どちらかといえば生徒の自主性を尊重され、自由重視の教育方針であったと思います。先生は20名ほどで、個性豊かな教育でした。

思えば、この甲陽時代に培われた物事の考え方とか人生の生き方というか、人間形成の在り方が100歳になっても、その当時のまま続いているように思われます。進歩がないと言われるかも判りませんが、中学時代の環境とか教育の在り方・過ごし方が、その後の人生にとって如何に大切であり、大きく影響を与えていることを痛感しています。

甲陽を卒業して、殆どの者が大学に進学したと思います。私と宮崎初代会長は慶応でした。早稲田・関学・同志社・関大・京大への進学者が多かったですね。つまり生徒の家庭環境が良かったのですね。慶応ではフィールド・ホッケー部で活躍し、レフトウィングでした。これで足腰が鍛えられました。

慶応をご卒業されて、鐘紡にご就職されました。そこで、海外生活が長かったと聞いていますが。

鐘紡に入社して6年後に、最初の海外駐在員としてロンドンに派遣されました。海外はロンドン・ニューヨークと、昭和8年から13年までの海外でした。最初は単身で、神戸港からの欧州航路でした。横光利一の小説『旅愁』に描かれた航路と同じで、神戸・門司・上海・香港・シンガポール・コロンボ・インド洋を経て、スエズ運河を通りナポリの次のマルセーユで下船しました。これらの寄港地では上陸して観光を楽しみました。マルセーユからは当時の汽車でパリー経由でドーバー海峡を汽船で渡り、ロンドンまでは再び汽車でした。家内と子供は2・3ヶ月遅れてロンドンまで来ました。仕事は一人でヨーロッパ全域が担当です。業務通信は、ローマ字の電報と手紙です。手紙はシベリヤ鉄道経由で3週間程で日本に着きました。思えば苦労もありましたが、これも今では懐かしさで一杯です。日本に戻ってからは、若さにまかせて東南アジア・アフリカを中心に飛び廻っていました。終戦の直前に召集令状が来ましたが、結局は軍隊には行かずじまいでした。

戦後は、鐘淵商事㈱と東洋綿花㈱の常務取締役のご要職を経て、東綿紡績㈱の副社長をご歴任。その後は大阪回生病院の監査役をされ、現在は悠々自適のご生活です。そこで、甲陽学院同窓会の草創期の役員として、同窓会に望まれることをお伺いします。

若い皆さんが非常に頑張っておられますので、感謝するばかりです。当初の同窓会は、当時の学校長が会長を兼務されており、これを7回生の北村善一先生が助けられました。同窓生でない校長が同窓会長ではとのことで、1回生の宮崎武男さんが会長になられ、同期の合田孝治さんが会長代行で、現在の組織を立ちあげられました。続いて、8回生の原　清さんが会長を継がれて、22回生の中島　久先生の熱意溢れる母校愛による補佐があり、組織としての同窓会の姿が目に見えてきました。8回生の友國説郎さんを経まして、15回生の高垣雄二郎前会長が、新しい視点からの見直しと人材の登用を熱心にはかられ、この大変なご苦労により、急速に同窓会の活性化が進みました。新しい世紀を迎え、22回生の平田　豊現会長に引き継がれたのですね。まだまだ辛いご苦労は続くかと思いますが、母校愛に燃える同窓生の皆さん方に期待をしています。特に、役員の皆さんにはご苦労をお掛けしますが、母校と同窓会を宜しくお願い致します。

ここで、百歳のご長寿の秘訣をお聞かせ願います。

何も改まったものはありません。ごく普通の生活です。朝はパン一切れと紅茶、そして人参と三度豆の煮たものです。後は家族と同じものを何でも食べます。強いて探せば、甲陽時代の蹴球と庭球、慶応でのホッケーで足腰が鍛えられたことですか。それと、晩年に病院勤務を約10年やり、見たり聞いたりの健康法のお陰もあると思います。

有難うございました。先輩が居られて現在の我々があると思います。先輩から後輩への良き絆を我々も引き継がせて頂きます。西松先輩が何時までもお元気にご長寿でいられますことを、我々は心からお祈り申しあげます。では、次のバトンは、お言葉のとおり４回生の山野井　萬先輩にバトンタッチさせて頂きます。

リレー随想

リレー随想

もう一名のリレー随想の執筆者は若い卒業生を代表して80回生の吉森晃さんです。このリレー随想の企画は、今後、先輩からの流れと後輩からの流れとの二本立てで進めていきたいと思います。

★人生の先輩の皆様に★

吉森　晃（80回）

甲陽学院を卒業して早3年の月日が流れました。思い起こせば、9年前、甲陽学院中学校に入学しました。その当時は、木造の校舎で、風が吹けば、ガラス窓は、カタカタとゆれ、雨の日には、雨漏りのため、教室のあちらこちらに、バケツを並べていました。重さによって、床が抜けそうな廊下を、昼休みになっては、みな走り回っていた覚えがあります。また、冬になると、空調設備がないため、テストのときなど、手がかじんでしまい、大変でした。そんな古い校舎で学んだ生徒も、私たちの学年で最後となりました。私たちが1年生の夏に新校舎が完成し、それとともに私たちの勉強する場所もほとんどが新校舎で行われるようになりました。

私の下宿の周辺は昔からの古い木造の家並で、私もその一軒家の一部屋を借りております。そして夏はとても蒸し暑く、冬は底冷えがしております。そのためか、同じ木造であった旧校舎が懐かしく思い出されます。

ところで、そんな私の下宿の隣には、非常に上品な老夫婦が住んでいます。おじいさんは、家の前にある、京都大学人文科学研究所の垣根を、毎日のように、綺麗に掃除していますし、おばあさんは、よく散歩をしていらっしゃいます。おばあさんとは、たまに顔を合わすと挨拶をし、よく昔話を聞かされます。お年寄りの方の智恵は、ご自身の宝であるとともに、地域の宝ですね。また、お話をお聞かせ下さいと私が言うと、いつも照れたように、笑ってくれます。おばあさんは、なかなか私の名前を覚えてくれませんが、それでもかまいません。きっと、いつかは覚えてくれることでしょう。おじいさんは88歳、おばあさんは82歳とおっしゃっておりましたが、いつまでも、お元気でいていただきたいと思っています。

私は、8年前に祖父を亡くし、3年前のセンター試験の前日に祖母を亡くしており、祖父母はいません。祖父母が生きていれば、ちょうど隣の老夫婦と同じぐらいの年でしょう。そのため、お隣の老夫婦をみると、祖父母のことが思い出されます。中学生、高校生のころは、あまり考えませんでしたが、今思うと、もっともっと話を聞いていればよかったと思います。本やテレビで、昔の日本の大学の状況を知ることはできますが、やはり、実際生きていた方の証言ほど確かなものはありません。イギリスの大学では、日本の大学のように、年齢層が固定化しておらず、さまざまな年齢のかたがたが学んでいるため、授業には緊張感があるそうです。そして、世界大戦の話をした折、老婦人が「それは間違っている。あなたは、私が見た事実と、文献とどちらを信じるのか？」という指摘で、教室は大喝采したという話を聞いたことがあります。ともかく、体験ほど力強いものはないでしょう。私は隣の老夫婦のお話が聞けたらいいなと思い、一度お邪魔したころがあります。おじいさんは、京都大学医学部の出身の方だそうです。当時は戦争の時代でしたので、医者は非常に重宝されたそうです。また、今はやりの分子生物学というものは当然なく、現代医学の進歩はすばらしいんだなと感じました。

年をとっていくとともにより豊かな人間性をそなえ、ますます生命の輝きを増すお年寄りのかたがたに、様々な体験を聞かせていただき、さらに自身を磨いていきたいと思います。そして母校の発展に僅かでも貢献できればとおもっております。甲陽学院の先輩の皆様、これからも私たち青年をよろしくおねがい致します。

寄稿

初　夢　―「廃校の歴史」発刊に寄せて―

副会長　宗田　久雄

今年は、甲陽学院の甲子園開校の85周年に当たります。望洋会（甲陽高等商業学校と甲陽工業専門学校の、卒業生の集まりの会）も、「甲陽高等商業学校と甲陽工業専門学校の資料集」を、「廃校の歴史」として残すべく、資料等の整備を行ってきましたが、この程ようやく発刊の運びとなり、当時の学校在籍の諸氏に配布することになりました。

望洋会とは、夙川の清流が七つの大洋に注がれることから名付けられたものです。高商は4回生を持って、工専（機械・造船・工業経営科）は2回生で、戦後まもなく廃校となりました。しかし、その学び舎は現在の中学校の校内に、今なお懐かしい木造平屋建のユニークな建物として、当時の面影をそのままとどめております。

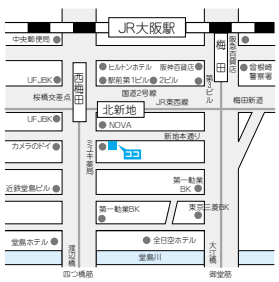
昨年末頃の同窓会の会議で、我等の有能な甲陽の仲間から、総理大臣を出そうではないかとの話が持ち上がりました。その昔、開国憂国の志士を育てた吉田松陰にあやかり、あのユニークな学び舎に、望洋の大志を抱く前途有望な塾生を集めて、寺子屋式に育成できればなあと云うのが、我々望洋会の21世紀に入っての初夢であり願望でもあります。

我々を取り巻く内外の情勢は、その前途厳しく多難でありますが、我々同窓生は一致団結、新しい希望とみなぎるパワーを持って、甲陽学院同窓会の新たな発展に燃えようではありませんか。

（高商1回）

Party-Park　パーティ　パーク

☆同窓会・会社の宴会、ブライダル・パーティ、等全てのパーティ・ニーズにお応えします。
☆洋食にこだわらない、創作パーティ料理が大好評です。各種のご要望にもお答えします。
☆お一人・5000円～で、料理・飲み物・個室代・カラオケ代　等も含まれています。（サ込・税別）
☆10名～100名様迄、用途に応じて個室が選べます。
※大阪市北区曽根崎新地1-3-19（北新地ビル）　お問合せ先　06-6341-0055



原稿は出来る限り400字詰原稿用紙1枚以内にして下さい。原則として原稿（含写真）は返却いたしませんので御了承下さい。

会員だより

20回　梅組　卒業60周年

秋晴れの暖かな11月23日、梅田の新阪急ホテルでミニ十六夜会（第20回生・梅組）総会が開かれ、同伴の奥様方3名を加えた17名の出席であった。卒業60年記念ということもあってホテル側からシャンパンの寄贈を戴き会も大いに盛り上がった。もう今ではお互いに顔見知りの仲となっているので自己紹介は全くその必要が無く欠席者の音信に耳を傾けたり、お互いの近況報告ということになった。

喜寿を過ぎればぼちぼち老人の仲間入りということになり、それぞれに何らかの体のトラブルを抱えていることがあるが、何時しか私達の話題はあの甲子園の甲陽の時代に逆戻りしていた。一同揃って笑顔・笑顔で話の花が咲いた3時間半は、例によって白井修三君のリードによる「運動の歌」につづく「校歌」の合唱の後、この日の記念撮影をして来年の再会を約しての散会となった。

当日の参加者は、写真前列向かって左から、一丸幸治、橋本伍郎、小山満智子、木村きよみ、岩崎澄子、和多利俊作、高岡正周、日下洋二郎。後列向かって左から、白井修三、山本勲、大仁原八郎、川畑俊夫、五味博喜、岩崎誠也、上住和幸、木村利雄、小山博

21回　K組「橘会」

昨日の雨模様とは打って変わり、多少冷えましたが秋晴れの上天気、平成13年11月4日（日曜日）、第29回目の橘会を宝塚市逆瀬川の「宝仙花　ばらの間」で開催しました。例年は座敷ですが、今年は趣向を変えて、洋間の椅子席に換えました。有馬温泉「中の坊端苑」の梶木剛常務が毎年差し入れて下さる銘酒「梅錦」、今年は例年より沢山に頂戴いたしました。開催に先立って、この一年間に亡くなった犬伏佳郎・船越和幸・厚見俊男・稲葉　明・荘司史朗・倉石秀夫の諸君の冥福を祈り、倉石愛子様よりの御芳志を伝え、事務報告のあと乾杯、それぞれが近況報告を兼ねて歓談しました。入間田君撮影の写真は前列左から比留間敏男・筒井　潤・濱口博章・井本幸雄、後列　樋口達彦・林　信男・一色　皓・森岡甲子男・入間田謙佶の諸君9名です。昨年参加の石倉君の急逝が惜しまれます。

来年は中学校卒業後60年、橘会も渡邊三郎君がお世話してくださったお蔭で、30回目を迎えます。来年の平成14年11月3日（第一日曜日で祝日）、場所は「宝仙花」でと決定しています。全員元気で集まりましょう。一年先の予定をお願いします。幹事は引き続き私がさせていただきます。（平成13．11．21）　　（濱口　記）

24回　秀光美会

8月25日、甲陽総会に便乗しての、緊急招集“秀光美会”の開催案内ではあったが、9名もの級友と久し振りの再会を喜びあえて、本当に楽しい一日を過ごすことが出来ました。

福井君のお計らいに感謝すると共に、ご多用中お集まり戴いた皆さんに御礼申しあげます。

昭和20年卒業以来、はや55年、4～5年間机を並べた級友に親しみと懐かしさがつのるのも歳のせいかと、感じられる今日このごろです。　　（古田　記）

25回　桃組

25回卒の第56回甲桃会（桃組）を昨年の10月25日に甲子園都ホテルで開催し、14名の出席でした。全員の出席ではありませんが、毎回約20名ほどの出席で行っております。

次回幹事は、池内・山崎・岩井の3氏です。

（田中　記）

25回　桜組

平成13年度桜組クラス会を、平成13年10月27日　、錦織達郎さんのご儘力により、関西電力中之島プラザで開催しました。本年は13名の出席でありました。遠く福岡から寺田　晁さん及び宮崎から病の癒えた山本喜典さんが参加されました。当初、16名出席の予定であり

ましたが、病気等のため出席出来ない方があり、13名となりました。

過去一年間、幸いにも会員は誰一人欠けることなく健在で、喜ばしい事であります。

出席者の近況報告では、賑やかな応酬が続き、和気あいあいの中で楽しい一刻を過ごし、最後は恒例の校歌及び応援歌の大合唱で締めくくり、来年の再会を約束して散会しました。

来年のクラス会は、平成14年10月下旬の土曜日に、本年と同じく関西電力中之島プラザで開催を予定して居ります。

25回卒桜組クラス会は、1988年再開以来14回連続開催となりました。来年は、15回目となりますので、数多くの会員の参加を期待して居ります。

今回の出席者は大川四津雄、河村郁夫、三田健一朗、寺田　晃、中田恵之、錦野達郎、波々伯部憲作、松浦守、宮原晃一、瑞穂光信、山本喜典、若松申一、安達正昭　以上13名でした。　（安達　記）

35回　二九稀会

会員総会当日（平成13年8月25日　）の午前10時から、甲子園都ホテルで、昭和29年卒C組のクラス会が開催された。

クラス替えが行われず、悪童時代の6年をともに学んだわれわれ新制第二期生は、やや斜めに構えた次男坊であったように思う。

出席者11名の殆どが、サンデー毎日の身分であるが、意のままにならぬ部下を動かす苦労や、周囲との人間関係の煩悩から解放され、グラスを傾けながらの至福の時を楽しんだ。

善悪より損得に走ることへの反省を迫られながら、未だにバブルの夢醒めやらぬ日本の現況を思うにつけ、戦後の荒廃から、高度成長を経て安定成長に至る良い時代を、現役で過ごせたわれわれは幸せであった。

近況報告をはさんで話は弾み、あっと云う間の3時間が過ぎ、午後1時半、余韻を残して次回の幹事を決め閉会した。　（北村 彬　記）

38回　同窓会

平成13年11月18日、甲子園都ホテルにて5年ぶりに開催しました。ご来賓として中島　久先生、吉井　良峯先生、神田　郁夫先生にご臨席頂き、札幌から時川　和夫君、関東から音川　忠彦君、小牧　孝一君、小山　修二君、大岡　昭男君も参加、34名の出席でした。物故者（11名）への黙祷を行ったあと、幹事挨拶、ご来賓3先生のご挨拶に続き、遠来者代表として時川君の発声により乾杯開会しました。今回も前回と同様出席者全員の近況報告に加え、アトラクションとして西田　武史君の令嬢で宝塚歌劇元花組スター華　陽子さん、同期生の元月組スターこじか 真衣さん、篠原 ゆいさん3人の特別出演もあって会場は大いに盛り上がり、予定時間を30分もオーバー、午後7時に盛会裏に閉会しました。次回は2年後に開催の予定ですが、今回体調をくずされ出席できなかった方も次回には体調を整えられ是非出席して下さい。　（鶴田 和成　記）

48回　学年同窓会

去る7月18日　の18時30分～20時30分、本町にある大阪ガス社員クラブにおいて、48回卒学年同窓会を行いました。昨年に引き続いての開催となり、参加者が大幅に減るのではないかと危惧する声もありましたが、21世紀の初年度でもあるし、丁度50歳を幾つか越えて職業生活の節目を迎え、今後の人生設計を真剣に考えざるをえない厳しい環境に直面していることから同じ身の上同志で話し合うのも意味があるとの趣旨で開催したところ、中島　久先生、静　利一郎両先生を初め総勢24名の出席をえることができました。まず、山崎　要さんの開会挨拶、臼井　利文さんの音頭で乾杯した後、両先生から同窓生や在校生の近況や示唆に富むお話を戴きました。引き続いて、クラス毎にステージにあがり、各人から一言スピーチを披露。趣味の話、リストラの話、そして早くも孫の話まで飛び出し、日頃の職場とはまるで異なるリラックスした雰囲気に包まれました。また、時あたたかも参議院選挙の真最中でしたが、我々の同期生である藤木　祥平さんが兵庫県から立候補している話が飛び出し、団塊の世代と政治にまで話が発展しましたが結局藤木さんの真意がよく分からないながら、彼の健闘を皆で祈りました。

最後は全員で写真を写して、お開き。一部の人たちは二次会、三次会へと繰り出し、暦が変わってからのご帰宅組もいたとか。幹事の予想を上回る盛況となったようです。東京の皆さんも次回は是非この日に合わせて大阪出張を計画下さい。

最後に事務局機能を担って下さった山元法律事務所の皆様に感謝します。

幹事　A組：池田・皆見、B組：臼井・山崎
　　C組：井上・大塚、D組：伊賀・山元

（池田　記）

51回　関東同期会

幹事を務めてくれた丸島君は司法制度審議会の最終答申を控えた忙しい時期に、会場手配や連絡などでご苦労をかけました。弁護士会18,000人の中からたった2人選ばれて、司法制度の改革に自らの業務を半ば犠牲にしながら奮闘している様は頭の下がる思いがします。まさに「弁護士会希望の星」（同業弁護士内田君の弁）なのでしょう。

さて、我々も50歳を迎え（因みにすでに誕生日を過ぎたのは1人でした）、第2の人生に向けての取り組みを考える時期にきているな、と感じました。

初めての参加となった高木君はずっと鉄鉱石の仕事で、日本人1人のインドでの駐在経験の話は興味深いものでした。

同じ商社系ではずっと営業関係で、売上好調なバーバリーを担当していた小山君は管理部門へ配置換えが決まり、検査部という社内では恐れられる部署にいる神戸君はいまだ独身でお見合いをくり返しているそう。

研究所から営業に回ってジュディー・オングと薬膳レトルト商品を開発発売していた益田君はまた研究所にもどり、病院が主な営業先の重松君は、毎年正月は実家の神社で神主稼業。第2の人生も心配なしとか。

聖路加病院で呼吸器科の医師を務める蝶名林君は過労？で正月早々入院した丸島君を世話してくれたそうで医者の友達がいるというのは心強いかぎりです。生命保険会社の小西君は単身の東京暮らしで家族の問題はなかなか大変そう。同じ会社で資産運用の部門に働く小林君は積極的営業をしてはいけない営業で苦労している由。

一部上場企業の副社長という重席にある船津君はビートルズコピーバンドのドラマーとしてライブもこなしているそうなので一度聞きに行ってみたいもんです。

内田君はなじみの薄かった横浜の地で弁護士を始めて20数年。大変ながらも組織の中で上を目指して格闘するポジションでなくてよかったな、という感想でした。

山口君は仕事で不動産業とのつきあいが深く、将来を見据えてワンルームマンションを買い増ししていて、物件と業者を誤らなければ節税効果も含めて現状では手堅い投資であると語っていました。この報告を書いている佐野は昨年の同期会で発症した痛風のため、この1年一滴もビールを飲んでいないにも関わらず一向に尿酸値が下がらず、食べ物に気を遣いながら21世紀型宝飾事業の立ち上げに向けて頑張っております。

57回　25周年記念学年会

いつまでも若いつもりでいる我々ですが、昨年高校卒業25周年を迎え、それを記念して6月9日　梅田のグランド白楽天にて学年同窓会を催しました。

当日は、林先生、中村先生、田村先生のご出席を得、メンバーも約70名が参加し、30秒スピーチなどで大いに盛り上がりました。

57回生では中務君のお世話でメーリングリストを作っています。57回生でまだ加入していない方は是非ご参加ください。希望者は、下の中務君のアドレスまで。

naka44@welbe.jp　　（今西　記）

三田甲陽会

「奥さんも、連れてきてや・・」

陶芸家田中和人（45回）の声、この電話が掛かれば三田甲陽会の始まりである。

1月26日JR三田駅前、居酒屋「さくら」に集まった面々、会長で医師の若森一雄（32回）夫婦へ、集合してきた皆の衆、遅い正月の挨拶をしている。

「本日の特別ゲストの到着です・・」

金庫番を長く担当している医師の根野卓(46回)がよく通る声を張り上げた。着席し近況報告に余念のない全員が入口を注視、例によって胸を張り、銀髪を掻揚げながら、ダチョウ先生こと中島久氏が現れ、和やかに開宴。吉例の挨拶、乾杯が終わり、副会長格の橋本好正（42回)が、「本日、新しく参加された獣医師の大西祥文（37回）さん、塾経営山本章太郎（57回）さんのお二人です、欠席は…」

紹介していると、阪神・淡路大震災の時、被災者に〔無料法律相談〕の神戸弁護士団を創設した森川憲二（46回）夫婦と同窓会名簿で世話を焼いた出版会社の松田楢臣(41回）夫婦が到着、ほぼ予定の出席者が席に着いた。

もう一人の医師、樫尾洋一（54回）夫婦を傍に引きつけ、ダチョウ先生、何時ものように〔ハハハハ・・〕とご満悦、大手の塗料会社の東北支社長で経営に携わり、漸く開放され三田に帰った水垣健（38回）と同期の逸見、こちらも陶芸家で田中和人に教えを請った高田正樹(49回）と建築家の平井安之（45回）が話に夢中になり、笑いこけている、長老格で衣料会社を経営する沢田専冶(34回）が「中閉め」の挨拶をしている、窓から見える、外は氷雨、三田の冬は母校のある阪神間と比べ随分寒いしかし、この夜の居酒屋「さくら」の二階は温かい雰囲気が、長く続いていた。

（逸見　記）

硬庭部　有志の会

秋晴れの11月10日、旧制・新制の移行時に、テニス部に在籍したメンバーの有志が、芦屋国際ローンテニスクラブでラケットを握りました。

丁度50年前の全日本高校選手権準優勝の善野史郎さんを中心に、還暦を過ぎて久しいメンバー9名が、動かぬ身体にムチ打って球を追いました。

終戦後の物不足の時代に、ボールさえ満足に使えなかった半世紀前を、なつかしく思い出しながら、最新設備の芦屋クラブのコートで天候にも恵まれての贅沢な半日でした。

良い汗を流したあとは、懇親会のみ参加された2人を加え六麓荘の神戸館でワインにステーキに舌づつみを打ち、昔話に花を咲かせながら至福の時を過ごしました。

来年も同じ時期に開く予定です。是非今回欠席された方もご参加下さい。

出席者　善野（33回）、小林（33回）、北村（35回）、柴田（35回）、石原（36回）、矢田（36回）、澤井（37回）、安光（37回）、金川（37回）、吉田（37回）、多田（38回）、以上11名

硬庭部　OB会

去る11月22日　の18時30分から大阪ガスの社員クラブ和室において硬式テニス部のOB会を行いました。

今回は対象を45回～53回卒へと少し拡大して案内しましたが、結果的には48回～53回卒のメンバーが当時顧問をして戴いた岡西　進先生を中心に総勢9名集まりました。先輩に厳しく鍛えられたことや正月に岡西先生宅でサンドイッチを作ってゲームに興じた思い出など話は尽きず、今や頭の淋しくなったおじさん達が気持ちだけは紅顔の美少年に戻って楽しいひとときを過ごしました。来年、岡西先生が70歳の古稀を迎えられるそうで、次回は先生が顧問をされていた美術部、硬式テニス部、軟式テニス部合同でOB会をひらくことを約して散会となりました。それでも話足りない人達はグループで二次会を続けたようです。

当日出席者　岡西先生・池田、伊賀（48回）・難波（49回）・掘、安部、前田（50回）・竹内、椿本（53回）

（池田　記）

剣友会　若剣士へ熱き視線

「おうリャー」「コウッ」と裂帛のかけ声、竹刀がバシッ、バシッと噛み合う。剣道場の片隅に陣取った白髪頭の一群はこぶしを握りしめながら、若き後輩剣士の勝負を見つめていた。

「やった」「いやまだだ」「久しぶりだのう。懐かしい」とつぶやく声ももれて――。

さる11月17日、仁川の関学キャンパスで行われた関学、六甲、甲陽三中・高校による剣道定期戦での一コマです。成績は通算7連覇はできなかったが、剣士も桜井主将以下突然の老先輩連の観戦で気負いすぎたのかも…。

白髪の一群は甲陽剣友会のメンバー。野球水泳など体育会系クラブの中では柔剣道は復活が許されず、終戦8年後にやっと実現、OB会は丸山喬一郎会長（19回）のもと20年も遅れて結成された。

母校もようやく偏差値重点教育から全人格へと、古き時代のスクールカラー「明朗、溌溂、無邪気」が見直されてきたらしい。

今春私達会員は母校剣道部躍進の一助にもと面手拭いの寄贈を企画、古稀から卒寿ばかりの老齢会員50余名に呼びかけて300本を調達した。この日はお礼をかねての定期戦参観に招かれたというわけであった。

試合に先立ち、参加全選手に来賓挨拶もされた中島久副会長（22回・元教頭）は後日「こうしたささやかな試みが他のクラブOBにも伝わって先輩、後輩、クラブの垣根も超え、我々の心のふる里甲陽の盛り上がり、うねりとなってくれれば、伝統の私学『甲陽』はさらに不朽の輝きを持ってくるのでは…」と述懐されていた。（H記）（当日参観会員は丸山、中島正副会長、20回永友利博、23回井上寿良、25回河村郁夫、27回原田達也）

（写真は寄贈された面手拭い、深緑地に気魄の白文字）

東　正雄先生 逝去

母校で長くご教鞭をとられた東正雄先生が、昨年８月１６日に逝去されました。謹んでご報告いたします。東先生は昭和２３年に着任、昭和５２年に定年退職されるまで、生物の授業のほかにも生物部の顧問として多くの甲陽生をご指導されました。

東先生を偲ぶ

緒方　正雄（48回）

兎に角ユニークな先生だった。入学し小学生時代とは全く授業内容が変わったので、生物も「ん、こんなことすんのか」てなぐらいに考えただけだったが、卒業後よく考えてみると、あのナミマイマイとイセノナミマイマイの区別点とかベニオキナエビスってのは何なんだったのでしょうか。進学校の中に居て超越した存在で、かと行って勉学一辺倒を否定するわけでなく。「こういった世界もあるんだよ、興味あったらのぞいてごらん」てなスタンスでおられた。小生は小さい頃から虫好きで、渡りに舟ですぐさま生物部に入ったのだが、運動部の方も忙しく、採集には行くもののクラブ活動にはあまり参加せず、個人的なおつき合いは殆どしてこなかった。しかしいつの間にか心の底にどっしりと存在するようになったのは何故だったのでしょうか。大学に入学後遠ざかってしまっていたが、子供が大きくなり、ベニシジミやヤマトシジミの飼育を教えているうちにまた蟲が疼きだし再開。その後縁あって大阪昆虫同好会に入会したが、昔の連絡誌を見ていると、53回の浜田稔、大倉幸彦、遊磨正秀、54回の湯川英彦、大久保潔、55回の赤山敦夫、59回の竹内陽史郎などが会員となっていたようで、あらためて東先生の影響力が伺われた。現在も小生の他に46回の重田仁志、50回の伊熊貢秀、54回の樫尾洋一などが居り、共々多くの仲間と採集に行き、酒を酌み交わし、語らい、楽しい充実した日々を送っているが、これも総て東先生が甲陽に居られたお陰と感謝している。ある日オークションに東先生の著された「京阪神の動物」が出品されたので競り落とし、読み返してみると、懐かしい同級生の浜中英二、池内英治、楠田英史たちの名が見られた。またある日ある昆虫誌を読んでいると「ギリシャの蝶」の採集記を書いているのは紛れもない同級生の広沢瑞福ではないか。ここにも影響された者が居た。「いい年していつまであほなことやっとんねん」と連絡し、旧交を暖めている。在学時代にはみんな東先生の価値を充分には理解しておらず、家の塀越しに「イボマイマイ」と呼んだり、娘に「おまえの父ちゃんイボやで」とやって取っ捕まった同級生ＯやＳもいた。（岡上と杉野の名誉のため特に名は伏せます）卒業後も「宝塚の自然」などに「宝塚自然保護協会会長」などと書いてあるのを見つけた時は「ああ、相変わらず元気にやっておられるのだ」となぜか嬉しく、2年ほど前に、「大山の思い出」を各自が書いてまとめるという話があり、早速送ったところ電話があり、30数年ぶりに聞こえてきた声は昔のままで、この人は年をとらんのか？とびっくりし、嬉しかった。そのうちにゆっくりお話しして御礼を言いたかったのに・・・・・。しかし天国には総て揃っているはずだから、きっとウハウハ言いながらアリやマイマイの系統発生をやっておられることでしょうね。合掌。

訃報

左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

（平成14年2月18日現在）

奥田　秋夫氏	（4回）	01年3月1日逝去	
森　源逸氏	（6回）	01年6月9日逝去	
東日下　宏氏	（7回）	01年6月3日逝去	
友國　説郎氏	（8回）	01年9月10日逝去	
香川　正一氏	（10回）	98年7月29日逝去	
富田　正郎氏	（12回）	01年11月9日逝去	
中村　英志氏	（13回）	01年12月1日逝去	
郷田　正一氏	（14回）	00年12月14日逝去	
野村　勇氏	（14回）	01年7月6日逝去	
寄田　康民氏	（14回）	01年5月19日逝去	
田中　至氏	（15回）	01年7月13日逝去	
昌子　弘蔵氏	（16回）	01年5月27日逝去	
熊谷健太郎氏	（17回）	01年1月24日逝去	
高田　光夫氏	（18回）	01年4月7日逝去	
若林　益茂氏	（18回）	01年2月8日逝去	
武田　可一氏	（19回）	01年2月24日逝去	
豊島　民昌氏	（19回）	01年10月31日逝去	
吉野正太郎氏	（19回）	01年11月11日逝去	
生島　正氏	（20回）	01年1月14日逝去	
山下　正治氏	（20回）	01年6月13日逝去	
竹市　敏治氏	（21回）	01年11月2日逝去	
三宅　昌夫氏	（22回）	01年1月6日逝去	
浜本　一也氏	（23回）	01年6月26日逝去	
高瀬喜太郎氏	（23回）	01年10月7日逝去	
中西　知三氏	（23回）	96年11月26日逝去	
池脇　良男氏	（24回）	00年12月7日逝去	
花房健次郎氏	（24回）	00年12月16日逝去	
池知　和昭氏	（24回）	00年12月8日逝去	
是近　欣二氏	（25回）	98年7月1日逝去	
丸野　一輝氏	（25回）	01年12月15日逝去	
渡辺　章吉氏	（27回）	01年12月15日逝去	
野田　康雄氏	（28回）	01年1月31日逝去	
岡田　恒夫氏	（29回）	01年7月23日逝去	
多田　博信氏	（29回）	99年1月31日逝去	
角田　富雄氏	（31回）	01年8月1日逝去	
和田　博氏	（32回）	94年9月30日逝去	
内海　稔員氏	（34回）	01年8月27日逝去	
北山　敏行氏	（36回）	01年8月19日逝去	
辰馬　通夫氏	（38回）	01年3月22日逝去	
田中　良樹氏	（38回）	00年6月2日逝去	
倉谷　宏氏	（41回）	02年1月27日逝去	
柳ヶ瀬　東氏	（46回）	01年6月17日逝去	
本木　隆夫氏	（48回）	01年11月7日逝去	
北島　博之氏	（56回）	01年7月31日逝去	
増住　和之氏	（57回）		
井上　一郎氏	（高商2）	01年9月24日逝去	
柏尾　行雄氏	（高商2）	99年12月1日逝去	
山本登史雄氏	（高商2）	01年7月5日逝去	
阿部　義夫氏	（高商3）	01年6月30日逝去	
田渕　弘文氏	（高商3）	（旧姓・宮本）	
		00年8月3日逝去	
高木　清孝氏	（高商4）	01年4月1日逝去	

友國 説郎　元同窓会長 逝去

元同窓会長で８回生の友國説郎氏が昨年９月１０日逝去されました。友國氏は、平成２年原清会長の急逝をうけて同窓会長代行に就任、平成４年から６年まで同窓会長の重責を果たされました。

嗚呼　友國説郎元会長の逝去を悼む

高 垣　雄 二 郎（15回）

先生はかねてより、お体のお具合が悪いと、お聞きしておりましたが、こんなに早く他界されるとは思いもよりませんでした。謹んでお悔やみ申し上げます。先生は甲陽中学（8回）卒業後、阪大医学部へ進まれ、後に阪神電鉄の診療所長に就任されましたが、先生の温情と、卓越した手腕は、壮大な病院を建設され、母校の沢山の校友も先生のお世話になったものと思います。

さて先生のご尊父様は、かつて甲陽中学校の幹事として、毎日学校へお出掛けになり、当時、中学生時代の私たちは、よくお見受けしたのを思い出します。また先生をはじめ、ご令弟、ご子息、皆甲陽学院ご出身で、なおその上、学校法人設立者　辰馬吉男氏の主治医として最期までお見届けされました。以上、数多くの母校出身者のなかでも先生ほど、ご一族挙げて母校にご縁が深く、母校の発展に尽くされた方はないと信じます。

ここに故人のご冥福を心からお祈り申し上げ、またご遺族、ご一同様の、お幸せを心からお祈り申し上げてお悔やみの詞とします。

合掌。

告　知　板

☆ 創立85周年記念・名簿の発刊 ☆

＊今年は、母校・甲陽学院の創立85周年の記念の年にあたります。5年毎に全同窓生の会員名簿を発刊しています。現在、会員名簿編纂委員会を発足させて、会員名簿編纂の企画等を検討中であります。
＊全同窓生の名簿をとなると、大変な労力で時間と費用がかかります。また、住所移転・勤務先の移動など多岐にわたる変更等が、この5年間にあろうかと思います。これらの確認・調査につきましては、各回卒の理事・評議員の皆様のご協力なくして出来るものではありません。
＊今後は、各回卒の理事・評議員の皆様のご協力をお願いすることになりますが、同窓生全員の会員名簿であることをご理解頂き、何分のご協力とご支援を宜しくお願いを申し上げます。勿論、会員名簿編纂委員会も苦労を厭わず、その達成に全精力を注ぐ覚悟を固めています。

☆「甲子園都ホテル」☆
－優待券の期限延長について－

＊同ホテルの「宿泊」と「飲食」の優待券について、現行の優待券には2000年3月末までと記載されていますが、2003年３月末まで期限延長となります。
＊優待券につきましては、事務局までご連絡を頂ければ、折り返し優待券をご送付させて頂きます。

☆ －お願い－　住所変更の届け ☆

＊会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
＊その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
＊各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

☆ 最近５年間に大学を卒業された方へ ☆

＊最近5年の間に大学・大学院を卒業された方々の、現住所と就職先等の連絡漏れがあり、その確認作業に事務局として難渋しています。
＊この場合、高校卒業時の親元に連絡していますが、親元住所の移転も多く、これらの追跡調査に時間と費用と手間がかかります。必ずご連絡を下さい。
＊同期の理事・評議員、又はクラスの幹事の方は、同期の仲間に移動があれば、事務局までご一報下さい。

☆ 各卒業回の理事・評議員の皆様へ ☆

＊理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立つようになりました。更に、理事・評議員の選出をされていない、また定員不足の卒業回も見られます。
＊同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は、重要な役割を担われており、同時に同期の仲間代表でもあります。会則上、理事・評議員は、同期の方々が適宜の方法で互選され、選出されることになっています。会則で本部からの指名は出来ません。よって、理事・評議員が空白の卒業回・定員に満たない卒業回の方々は、同期の仲間と話合いの上、更新・補充等を事務局までお知らせ下さい。

☆ →ご注意←　偽会員名簿・広告の勧誘 ☆

＊「甲陽学院同窓会」の名称を騙って、会員名簿を発行するからと、相も変わらずハガキ・電話・メールなどで、現住所・勤務先・電話番号などの照会と、広告掲載　等の依頼・勧誘が増えてきているようです。
＊皆様には、その依頼先の名称・住所・電話番号などを慎重にご確認下さい。何か不審な点がありましたら、同窓会事務局まで必ずお問合せ下さい。

―・―　―・―・―・―・―・―

◎母校・創立85周年の記念事業である「同窓会名簿」の編纂・発行・広告依頼と混同しないよう、慎重なご確認をお願い申し上げます。